

平成28年度横浜市子ども・子育て会議第3回保育・教育部会 第30期横浜市児童福祉審議会 第13回保育部会 合同会議 会議録	
日 時	平成28年8月31日（水）午後1時30分～午後4時
開催場所	マツ・ムラホール
出席者	赤坂栄委員、尾木まり委員、菊池朋子委員、木元茂委員、天明美穂委員、長谷山景子委員、平松道弘委員、増田まゆみ部会長、丸山智美委員、村田由夫委員
欠席者	神長美津子副部会長、
開催形態	公開（傍聴者0人）※一部非公開
議 題	<p><議事>（公開案件）</p> <p>(1) 横浜市子ども・子育て支援事業計画における教育に関する「量の見込み」の中間見直しについて【子子会議】</p> <p><議事>（非公開案件）</p> <p>(1) 横浜市預かり保育幼稚園等の新規認定について【子子会議】</p> <p>(2) 内装整備費補助事業に伴う新設保育所の認可及び補助金交付先法人の審査について【児福審】</p> <p>(3) 法人の自主財源による整備に伴う新設保育所の認可について【児福審】</p> <p>(4) 幼保連携型認定こども園の認可について【子子会議】</p> <p>(5) 幼稚園型認定こども園の認定について【子子会議】</p>
<p><議事></p> <p>(1) 横浜市子ども・子育て支援事業計画における教育に関する「量の見込み」の中間見直しについて</p> <p>○事務局（資料に基づき説明）</p> <p>○木元委員 区によって量の見込み数のばらつきがあり、推計人口が見直しによって減る区は落ち込み幅が大きいなと感じました。本当にエリアによって差が出てくるのかなという気がします。ただ、エリアによっては、認定こども園に移行したり、区内のすべての幼稚園が預かり保育事業を行っていたりと1号認定と異なる方向に進んでいる部分もありますので、この数字だけみてどうこうしていくというのはないかとも思います。</p> <p>○村田委員 こういう推計作業というのは大変なことだと思います。木元委員がおっしゃったみたいに、区によってだいぶ違いがあるということで、どちらかというとも北部のほうが量の見込みが多く、南部のほうが少ない傾向というのがあるわけです。保育所等でみると、一方ではどんどん新しい形の保育事業が出てきているのに対し、一方では定員割れという施設が出ている。その点では、この人口の見直しとともに保育施策の中身がどうなっていくのかということも、あわせて考えていかなければいけないと思います。それぞれの分野で検討ということもあろうと思いますが、今後の横浜市の保育施策として、人口増に合わせて、また改めて議論ができる一つの土台になればなというように思いながら聞いておりました。</p> <p>○増田部会長 ありがとうございます。とても重要な視点だと思います。今のことに関連して、ほかの委員の方でご意見はございますか。</p> <p>○木元委員 今の村田委員のご意見は、そのとおりでと思うのです。人口が減っていくということは、反対に幼稚園であれば空き教室が増えてくる等、施設の余裕が生まれてくるということにもつながると思いますので、今は、1号、2号、3号という保育・教育のニーズという点で議論をしていますけれども、そういったニーズがない0～2歳のお子さんをご家庭で育てていらっしゃる方は、この数字には出てきていないわけですよ。ということは、その方々が子育てしやすいような施策に、幼稚園や保育園での空き教室があれば利用していくということが次のステップになるのだろうと思います。</p> <p>○増田部会長 ありがとうございます。ほかの委員で、何かご意見ございますか。では、事務局側から、今のお二人の委員のご意見に対して、何かございましたらお願いいたします。</p>	

○事務局 ありがとうございます。保育に関して計画策定時と大きく違うのは、当時は全区でニーズ量が増えている、施設等を大幅に増設していかなければいけないという状況でした。その傾向が市全体としては今も続いてはいるのですが、区によって、また同じ区の中でもエリアによって、ある程度は施設等が充足してきているところもあれば、まだまだ整備が必要なところもあるというのが現状です。村田委員からご意見があったように、そのような状況を踏まえて、今後どのような形で保育施策を進めていくか、数の話だけではなくて質も含めてどうしていくかというのは大きな課題だと思っております。

また、木元委員からのご意見のとおり、幼稚園や保育所等の既存の施設等の活用策として、地域における子ども・子育て支援も含めて、横浜の子どもの育ちということを考えたときにどう進めていくのが良いかということを一体的に考えていくことが大切だと感じています。また、今回は「量の見込み」についてご審議いただいておりますが、来月以降は、「確保方策」について、具体的にどのように進めていくのかということについても、ご意見等賜りたいと思っております。

○増田部会長 それでは、事務局案を了承するというところでよろしいでしょうか。

○委員一同 （異議なし）

○増田部会長 事務局は、この「量の見込み」をもとに「確保方策」の案の準備をよろしく願いいたします。そして加えて、今、課題になりました点につきましても、また、保育の現場では保育者たちが厳しい状況にあり、その保育者が厳しいというのは子どもにとっても、様々な課題が起こる可能性があるということだと思いますので、ぜひあわせて検討をしていただければと思います。

以降、〈議事〉（非公開案件）

資料	資料1 横浜市子ども・子育て会議保育・教育部会、第30期横浜市児童福祉審議会保育部会 委員名簿 資料2 横浜市子ども・子育て会議保育・教育部会、第30期横浜市児童福祉審議会保育部会 事務局名簿 資料3 横浜市子ども・子育て会議条例、横浜市子ども・子育て会議運営要綱 資料4 横浜市児童福祉審議会条例、横浜市児童福祉審議会運営要綱 資料5 横浜市子ども・子育て支援事業計画における教育に関する「量の見込み」の中間見直しについて
----	--